

2018年度早稲田大学雄弁会春合宿 報告書

2019.3

演練幹事 志田 陽一朗

○日時：2019年3月21日～22日

○場所：高尾の森わくわくビレッジ

○参加：10人（赤沢・小口・長田・國谷・小林・佐藤・志田・村主・野尻・三谷）

○活動内容

- 1、演練 演題：「雄弁とは何か」
- 2、レクリエーション（球技。これに関する記述は省く）

○演練について

・概要は別紙「合宿の演練について」を参照のこと。ここでは、各会員に寄せられたフィードバックをまとめて紹介する。

・第1弁士：佐藤会員

<趣旨>

- ・「その当人が死んだ後でも、世を動かすことができる人」を雄弁家という。
- ・ものごとを「当事者意識(自分自身が行動しなくては)」をもって考えること。
- ・知識、行動力を備えた吉田松陰だが、その根源は「強い当事者意識」であったはずだ。
- ・樟蔭と塾生との間に「志の共有」があった。
- ・松陰の「夢に対するストイックさ」
- ・自己犠牲を産んでも「国のため、誰かの為」に夢を抱くことが彼らを動かした。

<感想>

「当事者意識（自分がなんとかしなくては、という気持ち）を持ち、誰かのために夢を持つことができる人は、自分が死んだ後にも影響を与え続けることができる。」というのは全くその通りである。全てにおいて賛成できる。吉田松陰の例はとても分かり易かった。一方、志の共有手段はどうするのかという問題はある。吉田松陰は言葉や熱意や決心が塾生に影響を与えたが、例えば聖書はどうか。恐ろしいほどの人口に影響を与えている聖書自体には熱意も決心もない。当事者意識を持っていたのはイエスだったのかパウロだったのか…わからない。となると「信仰」と「当事者意識」の差はどこにあるのだろうか…。もしかしたら俺が抱くメンヘラ当事者意識は、ただの「信仰」かもしれない。信仰における問題意識や当事者意識は多くの場合は後付けだ。とすると、当事者意識を持ってもらうためには、例えば「国防」なら「国を守ること」より「日本が好き」を先において、

日本に対する「信仰」を生む必要があるかもしれない…。俺もまだわからない。でも、全
てにおいて賛成できる。ちなみに俺はけいちゃんの周りに流されないところなんかをすご
く尊敬しているぞよ。

(合宿への参加、有難う。今後もよろしく)(小口)

雄弁家＝後世にも影響を与えられる人物⇒当事者意識と志が必要不可欠

他者を巻き込む夢だからこそ、雄弁家足りえるという視点は、とても面白かった。

また、戦うべき相手は、社会ではなく、自分自身という観点は大切だと思う。

ただ、利他性を強調することは、時に上から目線に陥ることもあると思うので、気を付ける
必要はあると思う。(村主)

・他人の為の夢を持ち、それを叶えるのが雄弁家であるという考えが新しかったです。長さ
も丁度良かったと思います。(長田)

松陰だけだろうか 似たような人は他にもいそう(僕からしたらテロリスト養成者) 中東の
テロ組織との違いはどうなのだろうか 彼らだって当事者意識を持って自国(?)のことを思
い行動していると思うが(三谷)

導入部分が興味を引き付けられてよかった。具体的な人物名(吉田松陰)を出すことでイメ
ージが湧きやすくなったと思う。「志」などの内面の問題に重きを置いていたのは新鮮な観
点だなと思った。(國谷)

・自分自身が日本を変えなければならない→当事者意識

そんな松陰自身の姿が弟子たちの手本となった

・彼の志の共有(歴史となって)

・自分のための夢ではなく、他人や社会のための夢。死後も何らかの形で貢献すること

→「社会全体にとっての最善を考える当事者意識」という自分の定義を、多くの人が知って
いる吉田松陰先生という具体例と重ねて論じたことで、雄弁家としての理想像を比較的は
っきりと思い浮かべることができている。

→憂国の士、雄弁家としての彼の像には、弁士自身の「弱い心」が全くなかったと言えるだ
ろうか。彼も人間である以上、そのような心が全くなかったとは言えないだろう。ただ松陰
先生に「偶像」としての役割だけを当てはめるのではなく、むしろ「彼もそのような心を克
服した上で、明治維新、ひいては日本の発展に寄与する雄弁家たる存在になったのだ」とい
うことももっと強調する(表現にする)べきだったと思う。(野尻)

「誰かの為に夢を描き、死んだ後も夢をかなえ続けられる人」

雄弁家を「一世も動かす」人と考えた場合、佐藤の言う「死んだ後にも影響を与え続ける人」、という観点は確かにそうだなあと考えさせられた。自分の「主体性」の考えと少し似てるけど、世の中を変えたいと思った場合「これは俺がやるんだ」という考えや覚悟は非常に大切だと思ふし、個人的には会旨の「実践力」という言葉はそうした覚悟や能力を示していると思うので当事者意識の話はかなり同意できる部分があった。

ただ「誰かの為に」ってのが少し引っかかった。自分がその「誰か」でない以上、その「誰かの為に」というのが本当にその「誰か」にとって良い事になっているのかはわからないし、自己満足や理想の押し付けに陥ってしまっていないか？という視点は常に持ち続けるべきだと思うよ。(小林)

松陰こそ雄弁家。人並みならない当事者意識。自分のこと以外に対しての志、夢。意志。他人に対する志だから塾生や、後世までも感化させ、今も変えている。

まず入りが良かったです。最初受験指導塾の先生を想像しました。加えて雄弁家像が説得的でした。当事者意識や他者のための夢や志を、人も時代も超えて広げていける人が雄弁家だという説明だと解釈しました。ただ夢や意識だけで人が動くようには感じないのと、あと「当事者意識←志」というロジックが逆ではないのかというのが気になりました。個人的にはそもそも当事者意識がどのように生じ、伝播するのかが気になりました。(赤沢)

吉田松陰を例に挙げたのは新鮮だった。ここ最近名前を聞いていない人だったので。志を常に持ち続ける、またそれを生かせ続けるというのは確かに難しいことだと思う。その点では、「雄弁とは何か」の定義は非常に納得のいくものだった。あとは、具体的な「志」の中身をもっと詳しく聞きたいと思った。(志田)

・第2弁士：小口会員

雄弁家＝自分の思い及び社会の総意、真理の統合者

結成趣意の文言を検討して、その対立関係を指摘している観点は、面白いと思った。

ただ、自分の思いと社会、真理は本来対立関係にあるものなのだろうか。本来は、協調関係にあるからこそ雄弁家が必要なのだと思う。その辺りをもう少し、丁寧に説明してあげると、もっとわかりやすいと思う。(村主)

・図を用いた説明が分かり易かったです。独立に正しい真理が存在するのではなく、自分の想いや社会の想いから生まれるものなのではないでしょうか。(長田)

例の粗相は笑い事じゃないぞ 実現可能性を感じない(もちろん目指す分にはいいと思う) 真理ってあるのだろうか(三谷)

会旨に登場する「能弁家・達弁家・叙述家・説明家・雄弁家」を図にして説明されていて、発表形式も新鮮でよかった。真の雄弁家は演練・研究・実践の中から生まれるなど思った。今の社会での雄弁家の具体像が出てくるとよかったかなと思った。(國谷)

- ・ 社会の思い、自分の思い、世の真理
- ・ 勉学による広い視野と、人と話せる人間性と、揺るぎのない自分の思いの要素
- ・ 三要素

→社会の思いと、自分の思いが重なるところは自分が社会の進展を願う思いがある以上、必ず歩み寄れるところはあると思う。弁論で述べた「どんな人とも話せる人間性」を培った上で多様な人と語ることで得られるものとして、「社会の思い」があると思うが(もちろん「世の真理」も)、それは自分以外の個々の人間なのか、集団内における空気のような感覚なのか。口頭で聞いたところ「両方の側面が必要。どちらを汲むべきかはその場その場での判断力が必要」との答えをもらったので、その「判断」という中で自分の思いも新たに出てくるか、思いを強くすることもあると思うので、だとすればその自分と社会の思いの相互に影響を及ぼす側面も含めて(距離のある『決まった』位置から互いに関係性を探る側面と共に)論じられればと思う。(野尻)

「社会の想い、自分の想い、そして真理を調停し社会の進運に寄与できる人」

演練・研究・実践や能弁/達弁・叙述家・説明家といった言葉をひとつの体系にまとめたのは良かった。ただ「社会の進運に寄与する」意思がどこから出てくるかという点において「社会の想い」や「真理」から出てくることもあるというのは少し引かかったかな、「社会の想い」や「真理」という自分以外のところから出た考えに従って世を動かすために努力するのは果たして雄弁家なのか？というか雄弁家を目指す人間が行う必要性はあるのか？調停者としての役割にかかわってくる話だと思うので、そこをもう少し丁寧に説明できればよかったと思う。

あとはともすれば(特に自分のような人にとっては)忘れがちな「社会とのかかわりを通じて『社会の想い』を知る」という事を強調したのは小口ならではのと思いました、良かったです。(小林)

三つの関係、バランス。

カギとなる概念、要素の枠組みがまとめられていてとてもわかりやすかったです。弁論自体は抽象的でニュアンスを解釈しづらく感じたものの、質疑応答で出てきた偉人の例がとても興味深かったです。個人的にはむしろその辺を掘り下げてほしいと感じました。(赤沢)

小口が言っていた社会の想い、真理、自分の想いすべての中心にいて一つに偏り過ぎずにこれらをうまく調整できるのが雄弁家だというのは確かにそうかと思ったんだけど、それっ

でもう雄弁家というか社会をうまく動かしていける人って感じがしたから、小口の考えで行けば雄弁家というのは社会をうまく動かしていける人で、そんな人になるには社会の想い、真理、自分の想いどれか一つに偏りすぎない必要があるのかなと思った。偏りすぎないことがなぜ重要かといえば、自分の理想を叫び続けてもそれが相手を否定し続けていたら、相手に納得して行動してもらうことなんてできないもんねという感じかな。(佐藤)

図解が入ったので、視覚に訴える感じで分かりやすかったと思う。特に、雄弁会のOBや過去の先輩方の分析をしっかりと行っていたことに感心した。ただ一方で(これは常日頃から気になることなのだが)、図での表現にこだわるあまり、言いたいことが言えなくなっているようにも感じた。時に図に表せないわかりやすさ、というのも存在すると思う。(志田)

・第3弁士：國谷会員

<趣旨>

- ・「行動してもらえるかどうか」
- ・「わかりやすさ」と「信頼」
- ・国会中継の例
- ・ある種のレトリック。「難しい話ではない」と伝えなくては、人は話を聞いてくれない。
- ・事の本質を簡単な言葉で語り、信頼があり、相手に行動してもらえる人。

<感想>

そう思う。事の本質は簡単な言葉で言い表すべきであるし、簡単に言い表せないものは本質ではないと思う。「この人は何を言いたいんだ？」みたいな人がたくさんいるが、そういう人たちは自分自身にすら「分かり易さ」を求めることができていないのだろう。そして知識や情報がある側の人間には「わかりやすく」伝える義務がある。また、ただ伝えるだけではなく、「何故それに興味をもつべきなのか」まで伝えられたら最高だとも思う。例えば数学も先生には「わかりやすく」教えるだけではなく「何故面白いのか」をつたえて欲しい…。政治家もそうで、「わかりやすさ」に加えて「何故政治参加が魅力的か」を伝えられる人が必要とされている。池上彰には事実現在という名の限界がある。未来を語れるのは政治家だけだ。「未来の魅力をわかりやすく伝える政治家」をともに目指そう。

(合宿の企画運営、有難う。マジで良かったぞ)(小口)

雄弁＝人を動かすこと(行動が必須)

⇒「わかりやすさ」と「信頼」

人々を行動させるためには、「わかりやすさ」が必要だということが、「わかりやすく」語られていたと思う。

ただ、常に「雄弁」である必要があるのだろうか。国会は、細かい政策論議を行う場所であると思う。国民に向けて話す場合と、政策論議を行う場合を一緒くたにして語るの、物事を単純化しすぎているのではないか。(村主)

・平易な内容で身を持って分かり易さの重要性を説いた所に、非常に説得力がありました。
(長田)

難しいことを話して逃げ回っている OB じゃん 簡単な言葉で話す 確かにそれは説明する時には鉄則 ただそれでことの本質が分からなくなってしまう 隠されてしまう恐れがあるのでは？ 対人論法じゃね？ (3つも質問ぶつけてごめんよ) (三谷)

・難しい言葉を使わず、平易な言葉で語るべし

→医者の不養生(のような例示)やわかりにくい言葉ばかり使う政治家といった悪い例を沢山挙げたことで、まず「雄弁家とは何でないのか」という外堀を埋める形で始める論じ方がとても分かりやすかった。また質疑で言われた通り、難しい言葉も必要な場面は確かにあるが、弁士はそれを認めて、(広く人々に語りかける場面や詳細な政策の方向性を詰める場面などで)言葉を使い分けるべきだとの回答も、具体的にやるべきこととして説得力があったので、平易な言葉を特に必要とする場面とはどんなものか、弁論の中でより詳細に論じられればよかったと思う。(野尻)

「わかりやすさと信頼」

社会を動かすためにはわかりやすく語らねばならない、また信頼を持たれる人が話さなければならぬというのはその通りだと思う。ただ国民・大衆に物事をわかりやすく話す、という事は物事をわかりやすくなるようかみ砕く過程で話者の偏見やイメージが入る可能性が多分にあるし、トランプなんかはその良い例。トランプも雄弁家だと考えようによっては言えるのかもしれないけれど、では雄弁家と大衆扇動家、ポピュリストの違いは何なのかという事を考えてほしいと思いました。

「常に堂々としていなければならない」と述べていたけれど、國谷が演台に立つ時は常にそれを体現していて非常に見ていて気持ちいいものだし信頼とはこういう事かと唸らせられました。(小林)

雄弁は行動を導くもの。それにはわかりやすさと信頼。という簡潔でストレートなメッセージが良く、有言実行だと感じました。ただそれだと、雄弁と、それとは異なるものである達弁との違いが何なのかがわからないし、単に話の上手い人に関する説明でしかないように

も感じます。あと「わかりやすさ」と「堂々と弁論すること」の両面で自分に当てはまる問題を感じたので、聞いていて有意義な弁論だと感じました。(赤沢)

俺もそう思う(笑) いいこと言っても、人に動いてもらえなきゃ雄弁家じゃないと思う。國谷はわかりやすさと信頼がそのためには必要と言っていた。その通りだと思う。俺もわかりやすい方が絶対にいいと思う。だってさ、分かりにくい言葉出てきたら、そもそも意味が分からないし、わかっててもその言葉の意味なんだっけとか考えてたら、その言葉の後の話しっかり聞けないじゃん。聞いてもらってる相手に思考させた時点で負けだというのをなんかプレゼンの本で読んだことを思い出したよ。ありがとう！信頼は相手に動いてもらうときに重要だよ。信頼している相手と信頼していない相手どちらの上司の下で働きたいか考えれば当然信頼できる方だもんね。どこまでわかりやすさを追求するかは聞き手次第だと思うから。相手にとってどのようなものがわかりやすいか知るために、まずは相手を知ることも重要だと思った。(佐藤)

非常にコンパクトな弁論に仕上がっていた。弁論内の「雄弁とは何か」の定義通り、わかりやすく、頭にスッと入ってくる言葉が用いられていた。ただ、難しいことを簡単に言い換えるのは非常に重要なスキルだが、それと同時に簡単にしづらい難しい言葉をうまくハンドルのする、というのも、同じくらい重要かつ雄弁の条件となりうるものではないだろうか。

・第4弁士：村主会員

<趣旨>

- ・一世を動かさなくては雄弁家ではない。本当に？
- ・在野にこそ雄弁家は生まれる。本当に？
- ・雄弁にはパラダイムシフトが必要。本当に？
- ・行き着く先が地獄なら雄弁ではない。(ヒトラー/麻原/詐欺師) 本当に？
- ・「優れた」雄弁家なら確かに上記はその通りだ。しかし「雄弁家」の本質ってなんなんだ。
- ・「自分の考えを相手に伝え、相手の価値観に良い影響を与える事」
- ・「相手の価値観を自分の価値観に近づけられる人」
- ・「聴衆が雄弁だと思わない限りは雄弁家ではないだろう」
- ・「正しさを疑い続ける必要がある。言葉に気をつけなくてはならない。」

<感想>

全くその通りであると思います。雄弁家と「優れた」雄弁家は価値観が入るかどうかがという大きな違いがあります。賛成です。「言葉の意味を考えること」と「行間を読むこと」

は違う。村主先輩は前者に雄弁家の本質を見出されたんだろうと思いました。(行間を読み始めたらキリがないからでしょうか) 一方、私の価値観は村主先輩の一言で随分変わっています。10月頃に飲み連れていただいた時、奥菌や中村、伊藤先輩との哲学的な論争で私が方向性を失っているという話をしたところ、一言「で？現実は？」と。これがその後の私の行動に役立っています。アンビバレンスな感情を抱いた時や、誰かとの間で板挟みになってしまった時、「で？現実は？」と自問自答することになっています。あえて議論を避けることや現実現場を最優先にするという判断の選択肢は、村主先輩の影響で身につけたものです。村主先輩に私から与えた影響はほとんど0かもしれませんが、私は村主先輩の「常に相対化する」考え方を尊敬しています。熱を持ったとき、自分の正しさを疑わなくなってしまうからです。私も自分自身の考えの「正しさ」に疑いをもち続けようと思います。

(合宿へのご協力、有難うございます。)(小口)

・今まで、雄弁家には正しさも必要であると考えていたので、ヒトラーでさえも雄弁ではあるという考えが新鮮でした。後半部分が少し冗長だった気がしました。(長田)

一人の価値観に刺激を良い意味で与えることで雄弁 なるほど 確かに… 自分の信ずるものに対して疑問を持ち続ける ただ大変(その通り) (三谷)

『「雄弁家とは～だ」と言われているのは本当に正しいのか』を何度も繰り返して、いろいろな考えに触れることができた。「雄弁家かどうかは聴衆が決める」というのはその通りだなと思った。(國谷)

・まず「正しさとは何か」という疑問

・様々な疑問を提示して「何が雄弁なのか、問い始めたらもうきりがなし」という導入

・雄弁なのか否かは聴衆、社会、人が判断する

→あらゆる方面からの疑問を踏まえた上で、最終的に雄弁の定義を「他者に刺激を与える」と簡素化するやり方には大いに説得力を感じた。自分の信念に常に疑いをもち続けるという作業の重要性もよく理解できたが、ただそれは「他者に刺激を与える」という行為そのものの危険性の認識にも関わってくるので、やはり信念である以上は人に発信し、刺激を与えようとするための「最低限の自信」も必要と思えるので、相当難しい舵取りが必要ということになるだろう。そこに「何が雄弁なのか」という問題が(聴衆に判断してもらう、というだけでなく)関わってくるのではないかと思う。

→小林先輩へのレビューも参照。(野尻)

「自分の考えを相手に伝える事、そして相手の価値観に(話者にとって)いい影響を与える事」

否定→本質→本質の説明という構成は、村主が思弁的な演練をやるときはだいたいこんな感じの形式になるのかなと思いました。

「一世も動かす」ような雄弁家はあくまで優れた雄弁家であり、「自分の考えで以て相手の価値観に影響を与える事」というのが雄弁家の基本であるというのはその通りで「一世」や大衆や世界を動かすことに熱中しすぎて逆に自分の殻にこもっていても雄弁家になれる可能性は低くなるという事を思い出させてくれました。

ただ「自らの考えが常に正しいのか疑うべき」事や「言葉の使い方に気を付けるべきだ」というメッセージに関しては、それ自体は正しいけれど「自分の考えを~」という雄弁家像とどう繋がるのかをもう少し説明してくれてもよかったと思う。(小林)

雄弁家を、他人に影響を与えるということを核にして説明されていたのが説得的でした。途中ちよくちよく出てきた批判としての疑問文が示唆に富んでいて、その少しずつ外堀を埋めていくような語り口が良いと感じました。ただやはり雄弁の要素はよくわかったものの、雄弁の要素を時々発揮する人と、「雄弁家」と形容できる人は違うような気はしました。(赤沢)

村主さんは自分の考えを相手に伝え、相手の価値観に影響を与えて自分の価値観に相手を近づけるのが雄弁家だといっていたと思います。僕も雄弁家は自分自身の考え価値観をしっかり持って、そのうえで相手の価値観を自己に近づける(僕の弁論では「志の共有」という言葉を用いました)ないと雄弁家ではないと思っていたから、大変納得しました。そのうえで、雄弁家は別に大衆を動かさなくても、立った一人に上記のことをさせられれば雄弁家だということがとても興味深かったです。僕は社会を動かせるほど多くの人と「志の共有」ができた人間が雄弁家だと思っていたからです。でもそれだけ多くの人と「志の共有」をしなければならぬのはその人物が在野にいたからで、権力を持っている人物は雄弁さを用いる必要がないだけなんだということをおっしゃっていたのが非常に印象的です。でも僕は雄弁家だから多くの人と「志の共有」ができたのではなく多くの人と「志の共有」をしなければ社会を動かさないと感じたとき人は雄弁家になろうとするのかなとも思いました。(佐藤)

弁論を聞いたことがほとんどなかったので、刺激的だった。添削しているときにも思ったが、構成がしっかりと組まれていて、次にくる話がある程度予想できるので聞きやすかった。具体例をあげつつも結局抽象的な解説に帰着している部分があったので、もう少し輪郭のある解説があるとさらにわかりやすくなると思う。(志田)

・第5弁士：志田会員

<趣旨>

- ・この世に真の雄弁家などいないのではないか。
- ・真の雄弁家はいないから、真の雄弁家像を探している。
- ・「明確な答えがない」から考えること、それ自体に価値がある。
- ・映像の方が説得力があることもある。言葉の力には限界がある。
- ・「自分の言葉の力と限界」を理解し、その中で如何に最大限の表現をするかを考えられる人。
- ・限界には「自分の思う限界」と「他人の思う限界」があり、それぞれの葛藤が成長を生む。

<感想>

いつも右斜め後ろからくる君の弁論は好きだ。今回の話も良くわかった。俺自身、言葉よりも聴覚や視覚によって動かされてきた面が大きいと思う。ただし、君自身の言葉は俺に影響を与えている。君は自分の言葉の力を本当に理解できているか？俺はお前さんのおかげで随分とメタ思考の癖が付いてきたし（いい意味で）、お前さんが価値があるというものに随分と価値を見出すことが出来るようになってきた。君はその言葉を持って相手を随分と動かしている。もしかすると人間というのは、言葉の力だけで十分に動かされるのかもしれない。

それと、言葉に限界があるように、映像や五感にも限界がある。言葉の限界を映像や五感が保管するように、我々人間は逆に映像や五感を言葉で補ってこようや。

（演練企画サンキュー、とても良かったと思う。）（小口）

雄弁＝言葉の限界を知ったうえで、自分の行えうる最大限の表現をする。

「雄弁とは何か」について、考えることに意味がある、その通りです。

また、言葉以外でも雄弁になれるという事実に言及してくれたのは、嬉しかったです。

ただ、演出として言葉の限界を示すためにも、写真のタイトルは言葉ではなく、文字で示してほしかったかな(笑)（村主）

・写真や映像を用いて、言葉以外の要素の重要性を説いたのが良かったです。チャーチルの例と、言葉の限界を知ることの重要性の関連を、もう少し丁寧に説明すると、良いと思います。（長田）

真の雄弁家であるなら雄弁会に来る必要はない（#それはそう）言葉だけが雄弁ではない言葉より写真の方が受け手が想像力を刺激するから伝わるもの 大きいのではと思う 限界は存在するのだろうか（三谷）

「雄弁とは何か」に明確な答えはなく、考えることに意味があるというのが重要だと思った。「百聞は一見に如かず」とも言う通り、言葉の持つ力の限界について考え、それが画像や映像を使った発表形式にも表れていてよかったと思う。(國谷)

- ・「世の中に真の雄弁家など一人もいない」
- ・「雄弁とは何かについて考察する事そのものに意義がある」
- ・雄弁の限界を示す写真、映像
- ・言葉の限界を自覚した上で、自分にできる限りの最善を尽くす

→自分が決して真の雄弁家になれないということや、「言葉の限界」を自覚した上で、それでもできる限り最大の表現をしなければならない、という結論には強い説得力を感じたが、その説得力は当然、実際に写真や映像を見せるというやり方に助けられた部分がかかなり大きいだろう。言葉の無力さを、言葉以外の手段で示すというやり方は、確かに本弁論を展開する上ではかなり重要だった(むしろ必須だった)と思うが、それだけでなく、言葉の限界というものを踏まえた弁論の結論自体も、そうした言葉以外の表現によって助けられたということ、このことへの自己言及という作業も、弁論の構成上、改めてやっておき、それを強調するというやり方をとれば、例の写真や映像をより有効に生かしたのではないか。(野尻)

「自分の言葉の持つ力の限界を知り、その上で自分の行いうる最大限の表現をすること」形式と内容を合致させる意図でやったのだろうけれど、「その場にあるものなら何でも使って構わない」と言われながらもマルチなメディアを使っての発表が少なかった中で映像・写真・音声を使った発表は際立っていました。まずはそうした頭の柔らかさが雄弁に必要なのかなとも思わせられました。

聴覚を取り戻した少年の写真もそうなのだけどチャーチルの演説の比較が最も印象的でした。本物があまりにも単調すぎるという…ただ「言葉だけでは限界がある」というのもそうなのだけどそれを補うためには他の表現だけで十分なのか。本物があの演説で人々を感動させられたのはその背景に志田の言う通り「語りつくせないほどのストーリー」があったからで、もしかすると演台に立つ前からチャーチルの演説は始まっていたのかもしれない。どうせ言葉の限界を指摘するなら、そうした演台以外の部分から既に雄弁になるための道筋が作られるのではないかということに関しても触れられていればよかったかなと思いました。(小林)

雄弁とは何かを直接答えるより、その答えのない問いを考えること自体に意義があるというのが印象的でした。そしてその、聴衆に考えさせるということを写真やチャーチルの演説も使って実行していた表現力はさすがだと思いました。チャーチルの生の声については、たしかに何が感動を生んだのかを疑問に感じたので、今後も考えていくべき示唆に富むもの

のように感じました。(赤沢)

演練幹事お疲れ様。言葉の持つ力には限界がある。確かにそうだと思う。また、言葉と何か(例えば音楽)を組み合わせることでより言葉の力が増すこともあるなと思った。個人的にただ演説を聞くよりそれにバックミュージックがあった方がよりいいと思う演説あったりするしね。チャーチルのやつとか(笑)実際に演説中に音楽を流す例とかあるのかな?そういう演練してみようかなと思う!選曲も演練指導だからよろしくね!(本気だよ)(佐藤)

・第6弁士:野尻会員

<趣旨>

- ・何のための雄弁か。
- ・ある種、啓蒙手段こそが雄弁なのだ。
- ・「何が問題か」だけでなく「どうすればいいのか」を伝える必要がある。
- ・「本当に大きな問題だ」と気づかせることができれば、「どうするか」の議論に移せる。
- ・十分な議論の場を作り出すために、問題意識を訴えることができる人。
- ・利き手側のことをもきちんと考えなくてはならない。
- ・同じ立場に立ち、その問題の重要性を、議論の重要性を、訴える人。

<感想>

俺と近いよな。自分の殻に閉じこもってはいは伝わらないし、ただのマスターベーションになってしまっはそもそも「伝え」ていない。俺たちの共通の悩みは「如何に社会の要求や総意を知るか」だな。確かに自分の殻にこもっちゃダメだけど、そもそも自分の殻と社会との境目ってなんなんだろうね。野尻にとって社会って何?だれ?

何が問題かを伝えるための「方法論」も考えて見たいよね。どんな話し方をしようとか、どんなメディアを使おうとか。雄弁会にいる間はそれは「言葉」になるだろうけど、それでも話し言葉と書き言葉では随分印象も変わるだろうし…。

これからも考え続けような。

(合宿参加してくれて有難う)

雄弁家≡啓蒙思想家

知識の格差を埋める人=雄弁家という考え方は面白いと思う。

また、社会の一員として行動する、社会との間に協調関係を築くのは大切。

周囲が気付いていないからこそ、自分たち(雄弁家)が弁舌で気付かせるというのは、大事

な観点。ただし、あらぬエリート意識を持たないように注意する必要があるよね。(村主)

・問題意識の共有が難しいという点について、その通りだと思いました。同じ内容の繰り返し、少しくどかったように感じます。(長田)

こちらを見て欲しい せっかく良いことを言っても伝わらなければ意味がない 学術的にやっている人間が下に降りてくる必要性 限界オタク(自分の世界に引きこもる)やっていたらついてこないわな (三谷)

いかにして当事者意識を持たせるかどうかが重要であり、それができる者が雄弁家だと理解した。一人の国民として訴えることが重要で、コスプレも専門知識も必要ないというのは面白いなと思った。(國谷)

「あらゆる人々の生活感覚、生活上育んできた価値に対して自身の主張する問題を訴えかけ、自分の想いを全ての人の護りたいものに繋げて支持を獲得し、意識の変化や行動に繋げる事」

何事かを訴えるならまずはその対象の価値観と自身の価値観との共通点に基づいてそれを話すべきである。というのはその通りだと思う。しかし例示していた国防の問題についてはやはり非常に難しいし 9 条護持を訴える人々が何故未だに一定の支持を受け、国防の拡充を訴える人々(右翼・ネトウヨを除く)が「日本人の生活・生命を守る」という一見誰にとっても当たり前のことを訴えながらも敬遠されがちなのかを考える必要があると思う。地方の選挙で護憲やら米軍基地撤廃やらを訴える共産党や在特会もあくまで「市民としての意思」を示している建前でやっているの、そこはやはり見た目だけではなく自分の主張の内実を分析して他の市民の生活感覚や価値観との最大公約数を見つけていくか、市民の価値観自体を転換する事を試みるかしかならないのでは。(小林)

コスプレや特権的な立場からの議論というものについては、身に覚えのあることだったので刺さりました。まずもって同じ目線、地平から問題を語り、問題意識を呼び起こし、議論の場を作るということ、それが雄弁家にとって必要だという主張に共感でき、良かったと思います。ただ具体例がそこまで具体的には感じなかったというか、具体的にはどう同じ地平にたって、どのように問題意識を導けばいいのかという事例が多いほうが個人的にはよりわかりやすいだろうと思いました。(赤沢)

社会を良くしていく過程には問題意識の共有と実際にどのような政策を打つのかの議論が必要でその問題意識の共有(=議論の場を作る)のために雄弁家になる必要があるというのはまさにその通りだと思った！俺の弁論を取り上げてくれてありがとうね。あの弁論を書

く時、安全保障に関する問題意識を一般的な価値観を持つ人にどう訴えるかを本当に重視していたからそれをわかってくれて本当にうれしかった。そのうえで一緒に考えたいのはこれは天野さんに言われたことなんだけど、安全保障のことって本当に国民にわからせる必要があるかといわれたことがあってね。安全保障に国民が興味ない以上政策決定者は国民ではない（俺はここがそもそも間違っていると思う。国民は具体的な安全保障政策にはあまり興味ないが安全保障の方針変更をしようとするれば必ずと言っていいほど大きく取り上げ国防アレルギーがあるからこそ反対の声を上げるしね）のだから国民の理解とかあまり必要なく政治家が理解していればよくないかといわれたんだけど野尻はどうして一般的な価値観を持つ人々との問題意識の共有がこの分野で必要だと思う？（佐藤）

最初の原稿を見た感じでは正直テーマから完全にそれてしまっていたが、それがだいぶ修正されていたと思う。文面で見ると論理は結構すっきりしているの、あとはその読み方の問題（語尾上げをやめる、もう少し全体的にゆっくりと話すなど）かと思う。自分が話したいテーマが 대중受けしづらいことを自覚しているのはすばらしいことだと思うので、「啓蒙」というよりは「解説」や「説得」という単語を念頭に置いて頑張ってもらいたい。（志田）

・第7弁士：三谷会員

<趣旨>

- ・無意識を如何に主張することができるか。
- ・人々が無意識に考えていることを、言葉として表象に持ち出す。
- ・より聴衆に感激を与えられるか。
- ・原稿を用意せず、聴衆を見て喋ることの大切さ。（感動を与えられる）
- ・聞き手をよく見ること。
- ・気づきのきっかけを与えること。

<感想>

國谷の考えと少し近いものがある気がする。本当に大切なことや物事の本質、自分の最も伝えたいことというのは原稿に起こすまでもないことだと思う。本当は俺もそうしたいんだけどそれを俺がやると高い確率で「失言」が発生するが（笑）

無意識に思っていることを言語化するというのも、全くその通りだと思う。俺もジョブズは好きだしな…。気づきのきっかけを提示するというのはつまり「新たな価値観の提示」ということだと解した。これが難しい。相手が自分の話を聞きに来てくれているだけならいいけれど、自分と違う考えを持っていた時とかはどうしたら良いのだろうか…。俺にもわからないぜ。

本旨とは関係がないけれども、あぁいう弁論の始め方がいいよね。好きだ。

（合宿参加、有難う。今後も頼む）（小口）

雄弁家＝相手（聴衆）を意識して、共感、感動を抱かせる人物

自身の尊敬する人物などを用いながら、組み立てていたし、論旨が明快だから「わかりやすかった」

また、弁論大会の経験から、社会と自身の対立関係がないことを示していたのは、良かったと思う。

だからこそ、協調してほしかったかな、「敵」ではないことを。（村主）

・再発見の重要性や、灯台下暗しという言葉に共感しました。原稿に頼らずに弁論ができるようになると、説得力が増すと思います。（長田）

敵にすら「そうだ」と言わせるためには、当たり前でありながら誰も気付かなかったことに着目して訴えることが重要だなと思った。何を話すかという話す前の段階に着目するのは新しいなと思った。（國谷）

- ・原稿を用意せず、アドリブで訴えることの価値
- ・「そうだ」と言わせることの難しさ 無意識を言葉にする
- ・「問題に気づくきっかけを与えること」

→自分や他の会員により、自分の思いや、それが対応すべき「社会の思い」、「世の風潮」「生活感覚」といったものが要素として示される中で、無意識というさらに潜在的な要素を引っ張ってきたのはとても面白い、画期的な視点だと思った。アドリブによって本当に自分が伝えたいことの核心をよりはっきりと人々の前で浮上させること、またその言葉で人々の無意識の思い(?)を言葉に変え、その潜在的な問題に気づかせるという見方は、他の会員が指摘した自分と訴えかける対象との関係を、最も簡単な図式で表したものだと思う。最初の「社会の思い」「風潮」「生活感覚」といった図式と比較して考えてみたい。（野尻）

「無意識的、潜在的に共有されていることに気づき指摘できる人間・聴衆に強い感動を与える人間」

弁論ではこの二つを分けて語っていたが、これは一つにまとめられることだと思う。聴衆が強い感動を感じる時というのは基本的に聴衆が潜在的に考えていたことを顕現させられた時なので。頷ける点多かったしわかりやすかったが、こうした「人々が潜在的に考えているけど見えていないもの」を見つけるのはなかなか難しいし、下手にそれをしようとすれば聴衆の表面的な部分を潜在と勘違いしに迎合することになりかねないのでそこは気を付けてほしい。あとは一度聞いただけでは政策弁論や野次を敵視しているようにも捉えられかねなかったので、聴衆と自身との協調関係について話す中でそれらも改善できる余地がある事、単純に敵だというだけではないことを強調してほしかった。（小林）

ジョブズが世界を変えた雄弁家だという主張は、言われてみればたしかにそうですが完全に盲点でした。政治や演説に限らず、人に納得感を与えること、潜在的に感じていることを見抜いて（言語に限らず）形にできる人が雄弁家なのだと解釈しました。そしてそれが納得感の根拠になっているという主張に共感しました。一方で聴衆を見ることが感激や納得につながるというものについては、大隈侯が雄弁だった理由はほかにもあったと思うので根拠が若干曖昧に感じます。（赤沢）

原稿あまり見てなくてよかった。ほんとに。三谷は当たり前なのに気が付き、聴衆に感動を与え、そうだ！の嵐にするのが雄弁家とっていた。聴衆に感動とかそうだ！というのは俺も考えたことはあったけど、当たり前なのに気が付きというのは考えたことがなくとても新鮮な考え方だった。俺は相手にそうだ！と言わせるのは正しいことかな？と思っていたが、それに加えて当たり前だがまだ気付かれていないものを聞けば確かにそうだ！と言ってしまうね。当たり前のことってわかりやすいから、國谷が言ってたわかりやすさも似ているね。ただ一つ、三谷は真の雄弁家にはなれないし、なりたくない、努力し続けたいとっていたよね。なら死ぬときに思うのは 100%になれたなあじゃなく、100%にはなれなかったけどでもそれが、人生ってもんだ！いい人生だったなあじゃない？((´▽`)) (佐藤)

声量があるのは非常に良い。良いのだが、ただ単にデカイ声を張り上げるだけでは、ヒステリックな中年女性と同様、聞き手が話の要旨をつかめずに終わりうる（声の大きさだけが印象に残り、話が頭に入ってこない）。声の大きさが達成されているのなら、話し方や間の取り方といった注目の方法を模索してみてもどうか。内容はうなずけるものだった。（志田）

・第8弁士：小林会員

<趣旨>

- ・世を動かす＝これまでとは違ったものにする
- ・人々に行動してもらう
- ・「**主体性を言葉にして、世を動かすべきだ**」
- ・現状維持⇔現状変革
- ・かつて世を変えたものは「異端」だった。
- ・社会を動かす手段として妥協を選び続けた結果、妥協自体が目的になってはいけない。
- ・**主体性、思い、人格、それが全てだ。**

<感想>

主体性は本当に大切なんだなと思います。想いを適切な言葉にすることの難しさはいつも身にしみて感じています。基本的に世間は現状維持を前提に成り立っていますし、自分も気を抜けば現状維持路線に流れていきます。主体性を持って、自分の想いを言葉にし続けないと、現状維持の海に飲まれてしまう…。(妥協前提の思考というのもこれに近いのかもしれないです)

小林先輩は誰かの主体性を見出す時、どこを見て「主体的だ」と判断しますか。私なんかはみいはあ族なので、すぐころっと相手を信じてしまう(主体的だと錯覚してしまう)のですが…。

しかし何にせよ、主体性、思い、人格、そういったものの重要性は私もすごく共感しました。

(合宿へのご協力有難うございました)(小口)

雄弁家 = 「前衛」

「前衛」という言葉はとっても、良い言葉だと思う。

雄弁家 ≠ 反体制派という言及も良かった。

あとは、言葉が難しいんだからゆっくり読もうね(笑)(村主)

・今まで、反体制であることと時代潮流に逆らうことを混同していたので、その違いに気付くことができました。(長田)

ムーブメントにのっかっているだけ 現状を否定し戦う覚悟 主体性 (三谷)

既存の価値観とは異なったものを主張することから雄弁が生まれるなら、雄弁かどうかというのは後の時代に評価されることなのかなと思った。社会の動きに飲み込まれた主張からは雄弁家は生まれないというのは新鮮だった。(國谷)

・社会の流れに便乗するのではなく、あくまで自分の信じるところに従ってその問題を訴えること。こうした人々(チャーチルなど)こそが後世においては雄弁家とされるのであり、主体性をもって、そうした「前衛」としての役割を果たした人こそが雄弁家と呼ぶに値する。
→「世の流れに便乗しているだけの人間は雄弁に見える『だけ』」であり、あくまで自分の信じるところに従って、主体性をもって発言するのであれば雄弁の意味を満たすものではないというのは、まさに人の生き方としても、世の将来を思う姿勢としても最も重要な指摘だと思う。気になったのは自身の信念に対する姿勢が村主先輩とかなり良い対照をなしているところであり、村主先輩は「それが正しいという保障はないけれども、とにかく他者の考えに刺激を与えられれば」とするのに対して、小林先輩は「正しいと思ったらそれに従

って主体的に訴えるべき」ということを強調している。例に挙げた奥園と同様、恐らく世の風潮という巨大な敵が真正面にいることを想定している面が強いことから、「これに臆してはいけない」という意識が自己の信念の確立と主張をより強く要求することにつながっていると思うが、ではここで「世の風潮」に対する自分の姿勢を、主体性のある弁論を貫くためにどう形成していくべきなのか。主体性はただ『頑固』であることだけを意味するものでもない、という観点も村主先輩の話と合わせて考えれば出てくると思うので、そうした「信念」の形成過程のあり方にも注目したい。(野尻)

雄弁家とは世を動かし変えることということから、既存の価値を変える主体的なものという意味を導くロジックが説得的でした。その上でそれは前衛的で基本的に反体制的なものが多いが、時代潮流に乗っただけ、飲み込まれただけのムーブメントは主体性がないとして明確に雄弁家から区別していたのがなるほどと感じました。ストレートなメッセージで納得できました。(赤沢)

小林さんは主体性を(=自分自身の想い)で他者、世界を動かすのが雄弁家であり、雄弁家であるためには自分自身の価値観を守り続け、現状を否定し闘う覚悟を持たなければならないとおっしゃっていました。其れができたならまさしく真の雄弁家だなと感じました。主体性を堅持し、自分の想いや理想は変えないで、自分の理想と異なる社会の想いを自分の理想に完全に引き寄せられたなら、それこそ雄弁家なんでしょう。要するに社会の多くの人に「自分の想いは間違っていた。あの雄弁家の考えが正しい！彼の考え方に従おう！」と思わせることができたならそれは真の雄弁家なのだということだと思います。然し、実際にそんなことができる人はいないのかもしれませんが。そのようにして何人かを変えることはできるかもしれませんが。でも上記の方法で一世を動かすのって本当に難しいなと思います。それなら、自分の想いと社会の想い双方が程度の差こそあれ、両者歩み寄っていった方が、社会が動く。その歩みよりをなせる者の方が、一世を動かしているのが現実的には雄弁家なのかもしれないとも思います。然し、自分で言うておいてなんですが自分の理想を妥協するようなのも雄弁家ではないような気もするので雄弁家の答えが出ません。小林さんはどう思いますか？(佐藤)

小林さんも弁論を聞いたことがほとんどなかったのが、今回の合宿が貴重な機会であることを再確認した次第。論理は少し難解だが、その分文字数を多く割き、例示もしっかりとなされていたのがよかった。ただ、自分自身の意見や「雄弁とは何か」の定義に至った過程が不透明だった気がするので、もう少し我を出してもよいと思った。添削時にあった政策弁論的な帰結を消してしまったのは勿体なかった。(志田)

・第9弁士：長田会員

<趣旨>

- ・ ログス、エートス、パトス
- ・ 人に文章を読んでもらう上で何が必要か。エートスなのである。
- ・ エートスを大切にしなければ、ロジックが通っていても意味がない。
- ・ 人柄によって共感は揺れ動くものだ
- ・ 有機的な繋がり

<感想>

エートスの例で俺をあげてくれて有難う。素直に嬉しかったよ(笑)有機的な繋がりって素敵なことだと思う。でも今回の越権行為騒ぎで俺は「暴走」の怖さを思い知った。有機的つながりは時に、ログスを見落としてしまう…。(三谷曰くこれを「馴れ合い」というような)

エートスって難しくてな…。ログスやパトスは自分の中である程度作って行くことが出来るけれど、エートスだけは自分の中に作れるものではない。日本社会においては「出る杭は打たれ」てしまうから、出た瞬間にある程度のエートスを失う。出てもエートスを失わないためには何が必要なのだろう。最近ここに悩むことが多い。長田はどう思う？笑

ただ、エートスばかりに注目すると今度はインパル作戦的展開や乃木希典的展開を招くかもしれない。だからきちんとログスも大切にしていこうな…。有難う。

(合宿参加してくれて有難う)(小口)

雄弁＝エートス

エートス(人格)の重要性を、具体的な体験談を用いつつ、またユーモアたっぷりに語っていて良かった。

質問で、エートス＝信頼構築だっていう良い答えが出るのだから、弁論中で言えるとなお、良かったと思う。

ただ、「雄弁」とはという解は、やっぱり見えづらかったかな(難しいんだけどね)(村主)

レトリック ログスとエートス 剽窃 エートス 対人論法(三谷)

ログス・エートス・パトスについて触れられていてレトリックで勉強したことが思い出された。同じことをだれが言うかによって印象が異なるというのが重要だなと思った。エートスは最大の武器だなと思った。(國谷)

- ・ エートスの重要性
- ・ ケネディと安倍、小口と犯罪者

→他の多くの会員があまり着目しなかった「エートス」の要素を強調したのは、さもはじめからそれを意図していたかのように、この埋もれがちな観点を改めて呼び起こし、考え直させる良い機会になったと思う。小口の弁論という最も身近な例を用いることで、それを訴える人となりのメッセージ性を強調したのは、まさに会員にとって最も理解しやすい、結論と具体例の組み合わせとして絶好のものだったと言える。しかし「誰の言ったことであろうと、その言葉が当を得ているか否かはその言葉自体から吟味されるはずだ」という質疑での反論はかなり想定しやすいものだったと思われるので、弁論において再反論として成り立つ要素を、再反論そのものとしてより強調された表現をもっと盛り込むこともできたと思う。
(野尻)

「エートス」

エートスの重要性を具体例を用いて語っていて非常にわかりやすかったけれど、中でもケネディと安倍の対比は傑作だった。ただ自分の中で「雄弁＝エートス」という答えが一つ出ているのであれば、そのほかのロゴス・パトスが雄弁にどうかかわってくるのかというのをもう少し深く語ってもよかったかなとは思う。またそのエートスを得るにはどうすればいいのか、小口の質問では「信頼構築」と言っていたがどうすればそのような関係を聴衆という不特定多数と結べるのかということについても話してもらえればよかった。(小林)

バートレー教授の講義は僕も極めて面白いと思っていたので、大変納得できました。エートスが重要であることを、同じ名言を非 WASP 移民のケネディではなく安倍首相が言ったらどうなるかという話で補強していたのが説得的でした。ただ、弁士ではなく弁論の中身にも弁士の人格だとか内容の信頼性だとか、エートスと分類されるものがあるようにも感じるので、原稿についてはエートスの重要性がどう当てはまると考えられるのかが疑問に思いました。(赤沢)

ロゴス、エートス、パトスでエートスが一番重要という話、まさにその通りだと思った！しかもそれを小口の前期にやってた話で説明していたところは確かに！その通りじゃん！とただただ思う限りだった。同じ言葉を聞いているのに相手への信頼度によって、感じ方が違うことは確かにあるね。じゃあさ、長田はエートスを構成するものって何だと思う？どんな人が信頼されるんだと思う？俺はね、普段から有言実行な人間が信頼できる。思いやりのある人間が信頼できる。そして情熱を持ってるやつが信頼できる。こんな風に信頼できる奴って人それぞれ違うと思うんだけど、多くの人から信頼される人ってどういう人だと思う？あと動かしたい相手から信頼を勝ち取るために、相手がどんな人を信頼しそうか考えるために相手を知るという作業も重要なのかなと思ったよ。(佐藤)

今回の弁論の中では最も「優しい」弁論だったと思う。個人的には新入生の前で同じ原稿で

(ここ大事) もう一回やって欲しい。弁論の教科書に載ってそう(笑)。

内容もシンプルで分かりやすかった。添削でもコメントしたが、優しさは十分にあるので、もう少しガッツを含んだ弁論になるとよいと思う (e.g.反例を出しうる範囲を狭める、数字などのデータで説得するなど。WASP のくだりはもう少し強化できると思った)。(志田)

・第10弁士：赤沢会員

<趣旨>

- ・世界に対するメッセージを発しているものは皆、雄弁家である。
- ・「わかりやすさ」「親しみやすさ」「物語を語れること」
- ・事実より真実を人々は求める。
- ・価値観、生き様、経験の組み合わせが絶対に必要。

<感想>

たまに赤沢が発表してくれるのがいつも楽しみです。ウィットに富んだ面白い弁論はいつもみんなを魅了しているよ。そして、俺と赤沢の雄弁家像が結構近いことを知った。わかりやすさは國谷の通り、物語性も全く賛成。特に赤沢に共感するのが「親しみやすさ」だと思う。価値観や生き様や経験はほとんどの場合、言葉のラリーで通じ合う。だから前提として、「話せること」がくる。とすると親しみやすさがあったほうが会話には持ち込みやすい。赤沢はいつも穏やかにしているから、会話になりやすいし、多分赤沢も俺も随分お互いの生き様はわかって来ているはずだ。(笑)

今後よろしく。(合宿参加してくれて有難う)

雄弁=メッセージ性を持つもの 雄弁家=物語(具体性)を語れる人物

昨日、部屋で聞いた内容がよく整理されていたと思う。(冒頭部分とかね)

「一世を動かす」⇒目的ではなく、結果でしかないという考えはその通りだと思った。

「ストーリーは具体例が線になったものだ」って表現は大事な考え方だと思う。

ただ、話す速度は気をつけようね(緊張しちゃうんだけどさ)

・虚構ではない具体性のある物語という概念が面白いと思いました。ゆっくりと話すことを心掛けると、より分かり易くなると思います。(長田)

雄弁家 わかりやすさ 親しみやすさ ストーリー 合理的 フィクション エピソード 具体感動の押し付け (三谷)

雄弁とは言葉だけでなければ人間である必要もないという観点は面白かった。募金の集め方に関するメッセージ性についてはその通りだなと思った。わかりやすさが重要だという

ことには強く共感したが、少し言葉のチョイスが難しかったと思う。(國谷)

- ・雄弁は弁舌だけではない。人物でなくともよい(歴史現象としてのヒトラー、原爆ドーム)
- ・親しみやすさ、カリスマ性と共に物語を語れること
- ・事実と真実は違う。具体は抽象に先立つ。確かな事実根差してこそ物語を見いだせる。

→原爆ドームやヒトラーという、それらの象徴するものが広く一般的に共有されている例を挙げたり、演劇という実体験を用いたりしたことで、いつも言葉が抽象的になりがちな分、そのイメージの輪郭がかなりつかみやすく、わかりやすいものになっていたと思う。事実裏打ちされない物語の無力さと空虚さ、また逆に事実根差して物語を構築し、訴えかけることの威力というものが、具体例と結論をうまく交差させることでかなりの説得力をもって伝わっており、弁士の世界観の展開をより一層、面白く観ることができた。(野尻)

「わかりやすさ、親しみやすさ、カリスマ性を持ち、物語(聴衆に共有されている事実の断片をひとつの線でつなぐ真実)を語れる弁論家」

冒頭の問いから終盤まで全て良かった。キケロ、演劇部、ヒトラー等、古今東西の豊富な例を用いて自らの雄弁家像を語る弁論は非常に聞いていて興奮させられたし、事実の羅列の中に充分ストーリーを語ることはできていたと思う。しかし良かった分、赤澤の語る「虚構の物語」と「具体性・リアリティ」の違いが分かりにくかったのが残念。自分の質問では「観客がストーリーを見出すか否か」と答えており、ある意味結果論的ではあるけれどそれも正しいと思う。しかし観客・聴衆が自分の話に「虚構」ではなく「具体性」を見出すには弁士はどうしたらよいかを語ってくれればさらに良かった。雄弁家になるには能動的にはどうすればよいのか。(小林)

赤澤は親しみやすさがあるのみでなく、わかりやすくもありそして物語を語るのが雄弁家なのだといっていたよね。まず、今日の赤澤の弁論は今までで一番わかりやすかった！今までは俺の頭が足りないというのもあったと思うんだけど、赤澤は俺の知らない言葉を沢山使っていたんだよね。國谷へのコメントでも言ったんだけど、わかりやすさは大事だよね。だってさ、分かりにくい言葉出てきたら、そもそも意味が分からないし、わかってもその言葉の意味なんだっけとか、何を言いたくてこの言葉を使っているのかなとか考えてたら、その言葉の後の話しっかり聞けないじゃん？聞いてもらってる相手に多く思考をさせた時点で負けだというのをなんかプレゼンの本で読んだことがあったから、わかりやすさってやはり大切だと思う。次に物語のはなしだけど、確かに多くの人を動かしたオバマの演説世尾で見たりするとストーリーがあるんだよね。それも何がすごいかって、1人の物語じゃないんだよね。いろんな人のそれも過去の人、今を生きる人の、時にはアメリカという国のいろんな物語が入っている。でもそれらがバラバラじゃなく1つの物語を作っている。赤澤の言う具体的なこと1本の線で貫くというやつかな？多くの人とその物語の中に自分を見

出すことができたからこそ、彼は多くの人を動かすことができたんだと思う。(佐藤)

添削時から非常に面白い内容だと思っていたが、やはり全体で見ても異色だったと思う。いい意味で。哲学的なことを多く話題にするので、テーマの性質上どこまでも難解になりうるのだが(花井杯の時は正直これだったな…)、今回は非常に明快になっており、失礼ながらびっくりした。最も今後期待できる弁論だった。(志田)

○その他(演練総括)

・みんな人それぞれ雄弁に対する想いが異なっていたがそのどれにも「たしかにそうだ!」と思えたのが非常に面白かった。人それぞれ目指す雄弁家やその条件は違うかもしれないが、雄弁家がどのようなものかを自らの言葉にしたおかげで、自分に足りないものが見えてきた人も多いと思うから(自分も足りないものがわかった)これからもそれぞれが高みを目指していけたらと期待する!(佐藤)

・お疲れ様でした。サブテーマもしっかりと使いつつ、自分の言いたいことをしっかり述べる、という弁論にどれも仕上がっており、流石だなと思いました。テーマは同じでも、むしろテーマがそろっているからこそ、それぞれの個性が非常に濃く表れていたと思います。弁論大会とはまた別の面白さがありました。

これから新歓に突入していくわけですが、今回自分の中の「雄弁とは何か」を明文化したことは必ず役に立つと思います。個々のフィードバックを活かし、各々の「雄弁」観を発展させて行くきっかけとなれば幸いです。

以上